

2009 年 12 月の東北地方の天候

【 12 月の特徴 】

- 気温の変動が大きい
- 中旬の東北日本海側南部の大雪
- 東北太平洋側の多雨

(1) 2009 年 12 月の概況

期間の前半は、寒気の南下は弱く、天気は数日の周期で変化した。また、本州付近を通過した低気圧の影響で東北太平洋側を中心に降水量が多くなった。中旬の中頃から下旬のはじめにかけては、強い寒気が南下して冬型の気圧配置が続き、東北日本海側は雪で南部を中心に大雪となったところもあった。東北太平洋側は沿岸部を中心に概ね晴れたが、雪となる日もあった。その後、下旬の中頃には寒気の影響は次第に弱まり、天気は数日の周期で変化したが、下旬の終わりには低気圧の通過後に冬型の気圧配置が強まり、東北日本海側を中心に雪となった。気温は、期間の前半や下旬の中頃は高い日が多かったが、中旬の中頃から下旬のはじめにかけては顕著な低温となるなど、変動が大きかった。

月平均気温は東北地方で平年並。月降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり多い。月間日照時間は東北北部でかなり少なく、東北南部で少ない。降雪の深さの月合計平年比は東北日本海側で 80%と平年並、東北太平洋側で 52%と少ない。

(2) 各旬の天候経過

上旬：この期間、3 日と 5 日から 6 日にかけては低気圧が本州付近を通過した影響で曇りや雨となった。低気圧の通過後は冬型の気圧配置となる日もあったが寒気の南下は弱く長続きしなかった。その他の日は、高気圧におおわれ概ね晴れた。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり多い。日照時間は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で平年並。

中旬：期間のはじめは低気圧や前線の影響で曇りや雨となった。期間の中頃からは強い寒気が南下して冬型の気圧配置が続き、東北日本海側は雪で南部を中心に大雪となったところもあった。東北太平洋側では沿岸部を中心に概ね晴れたが雪の日もあった。なお、16 日から 20 日にかけて秋田県や山形県、福島県で大雪による被害や交通障害が発生した。

平均気温は東北北部で低く、東北南部で平年並。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側でかなり多い。日照時間は東北地方でかなり少ない。

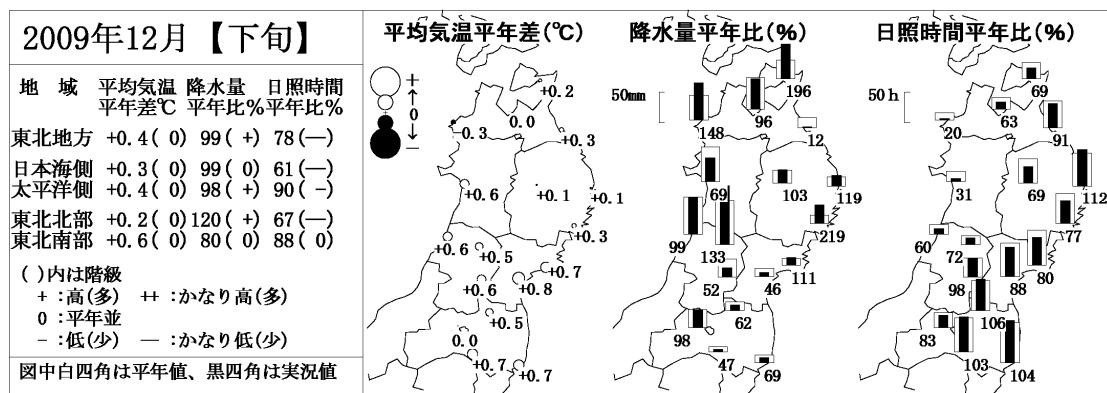
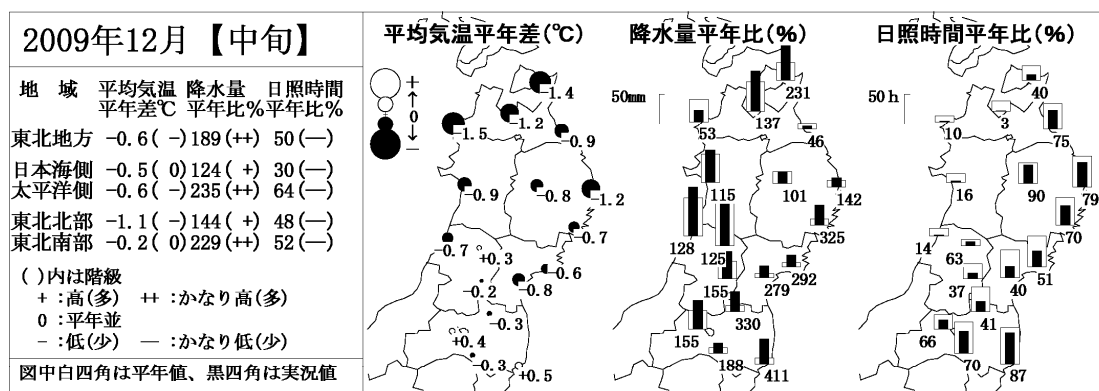
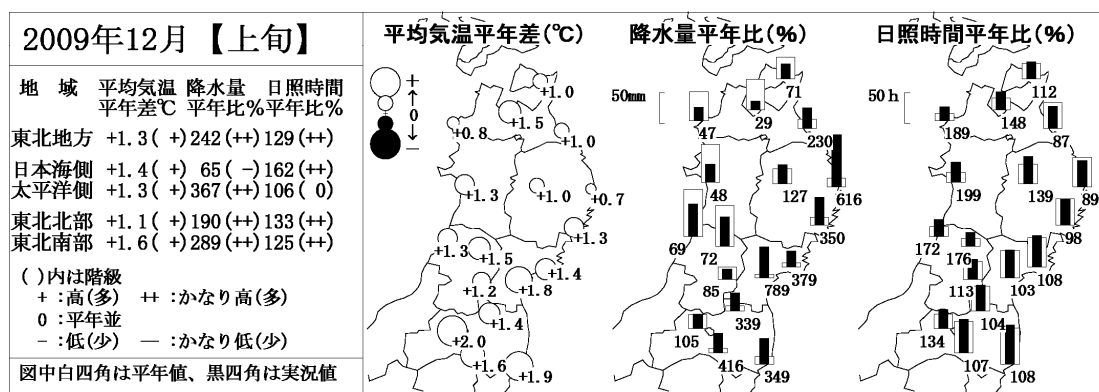
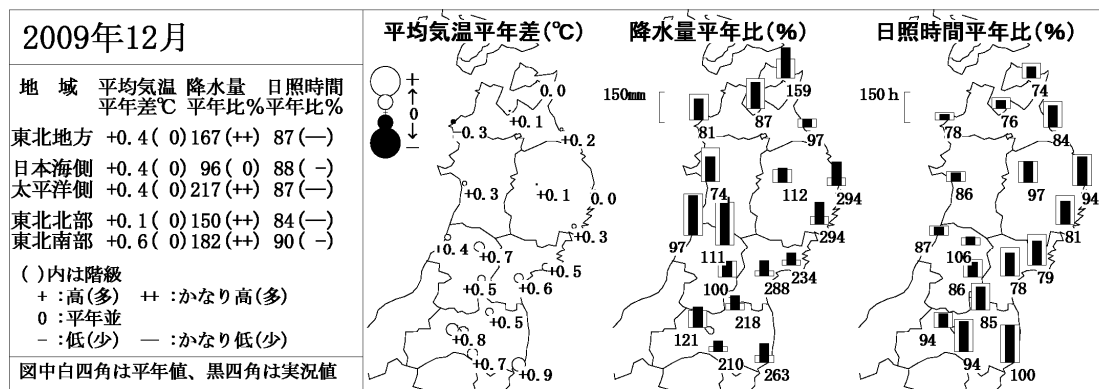
下旬：期間のはじめは強い冬型の気圧配置となったため、東北日本海側では雪となり、東北太平洋側では沿岸部を中心に概ね晴れた。その後は、東北日本海側では日本海を短い周期で通過した低気圧の影響で曇りや雪または雨となることが多く、東北太平洋側では天気は数日の周期で変化した。30 日は日本海を低気圧が発達しながら北東に進んだため東北北部を中心に雪となり、低気圧の通過後は冬型の気圧配置が強まった。なお、30 日は青森県で強風による被害が発生した。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北北部で多く、東北南部で平年並。日照時間は東北北部でかなり少なく、東北南部で平年並。

(注) 気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。
細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。
平年値の統計期間は 1971-2000 年です。階級区分については、3 ページ目脚注 2 を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2009年12月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2009 年 12 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級 (℃) (℃)	降水量(平年比)階級 (mm) (%)	降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級 (h) (%)	降雪深さ(平年値)階級 (cm) (cm)	最深積雪(平年値)階級 (cm) (cm)
青 森	1.4 (+0.1) ○	129.0 (87) ○	22	41.7 (76) —	123 (170) —	64 (51) +
深 浦	2.2 (+0.3) —	102.0 (81) —	17	26.6 (78) —	47 (77) —	20 (17) ○
む つ	1.2 (0.0) ○	148.5 (159) +*	23	54.9 (74) —	137 (101) +	49 (24) +*
八 戸	1.8 (+0.2) ○	40.5 (97) ○	4	108.1 (84) —*	6 (52) —*	3 (10) —
秋 田	3.1 (+0.3) ○	121.5 (74) —	21	40.9 (86) —	83 (79) ○	34 (16) +*
盛 岡	0.9 (+0.1) ○	72.0 (112) +	14	101.3 (97) ○	48 (68) ○	17 (17) ○
大 船 渡	3.8 (+0.3) ○	108.5 (294) +*	10	113.7 (81) —*	3 (11) —	3 (4) ○
宮 古	3.0 (0.0) ○	117.5 (294) +*	8	142.1 (94) —	12 (19) ○	7 (6) ○
仙 台	4.9 (+0.6) ○	76.0 (288) +*	7	112.3 (78) —*	3 (14) —	2 (7) —
石 巻	3.9 (+0.5) ○	58.0 (234) +*	7	123.1 (79) —*	2 (7) ○	1 (5) —
山 形	2.9 (+0.5) ○	77.5 (100) ○	15	72.8 (86) —	58 (92) —	27 (23) ○
新 庄	2.1 (+0.7) +	235.0 (111) ○	24	39.5 (106) +	161 (168) ○	64 (50) +
酒 田	4.7 (+0.4) ○	195.0 (97) ○	24	39.1 (87) —	66 (64) +	26 (13) +
福 島	4.7 (+0.5) ○	71.0 (218) +*	8	111.6 (85) —	27 (35) ○	14 (10) +
若 松	2.7 (+0.8) +	100.5 (121) +	16	68.0 (94) ○	58 (100) —	32 (28) ○
白 河	3.4 (+0.7) ○	52.5 (210) +	8	147.8 (94) —	8 (25) —	3 (8) ○
小 名 浜	7.0 (+0.9) +	92.0 (263) +*	5	184.4 (100) ○	()	()

(注) 1. 平年値は 1971～2000 年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+ : 高い (多い) ○ : 平年並 — : 低い (少ない)

各階級の区分値は、1971～2000 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる (各階級が 10 個ずつになる) ように決めた。

また、値が 1971～2000 年の観測値の上位または下位 10% に相当する場合には階級の「+」に * を付加した。この場合には

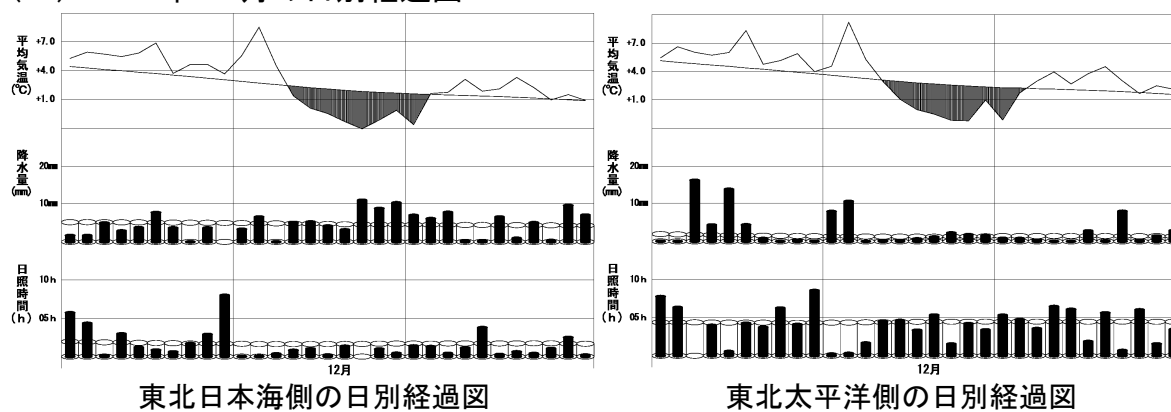
かなり高い (多い) かなり低い (少ない)

と表現できる。

3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ (日別値) に欠測等が含まれていることを示す。) 付きの値 (準正常値) は通常のものと同様に扱うことができるが] 付きの値 (資料不足値) については、値の下に記載した統計日数 (統計に用いた、品質が十分な日別値の数) を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2009 年 12 月の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

(6) 2009 年 12 月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新
3 位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新
3 位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新
3 位以内はなし

月降水量少ない方からの順位更新
3 位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新
3位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h (西暦年)	開始年	平年値 h
2	大船渡	113.7	81	103.0 (2006)	1963	139.6

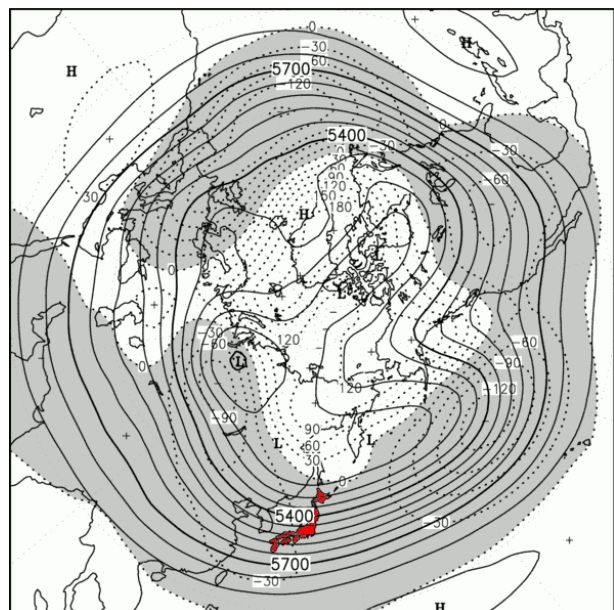
降雪の深さ月合計値多い方からの順位更新
3位以内はなし

月最深積雪大きい方からの順位更新
3位以内はなし

(7) 2009 年 12 月の循環場の特徴

500hPa 高度の月平均では、北極付近やアラスカから東シベリアにかけては広く正偏差となった。一方、中緯度帯は負偏差で、寒気が中緯度帯に南下しやすかったことを示している。日本付近は西日本を中心に負偏差におおわれているが偏差は比較的小さく、寒気の影響を受けた時期が限られていたことに対応している。

東北地方では、中旬の中頃から下旬のはじめにかけて強い寒気が南下して冬型の気圧配置となる日が続き、顕著な低温となったが、その他は気温が平年を上回る日が多く、月平均気温は平年並だった。



2009 年 12 月の平均 500hPa 高度

実線は等高度線：60m 毎、点線は偏差：30m 毎
陰影部は負偏差（寒気に対応）

(8) 2009/2010 年寒候期 季節現象

2009/2010年寒候期 季節現象(初日)									
官署名	初 霜			初 氷			初 雪		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
青森	10. 25	10. 23	11. 11	11. 3	10. 29	11. 11	11. 2	11. 7	11. 4
秋田	×	11. 6	11. 11	11. 3	11. 13	11. 20	11. 2	11. 12	11. 19
盛岡	10. 23	10. 18	11. 2	11. 3	10. 24	11. 10	11. 3	11. 8	11. 8
仙台	11. 22	11. 6	11. 27	11. 22	11. 16	11. 27	12. 7	11. 22	11. 20
山形	11. 18	10. 24	11. 2	11. 18	10. 29	11. 2	11. 3	11. 16	11. 19
福島	11. 4	11. 6	11. 21	11. 4	11. 11	11. 21	12. 14	11. 24	11. 20
若松	11. 4	10. 28	10. 30	11. 4	11. 6	11. 5	11. 2	11. 17	11. 19

※秋田の初霜は、積雪によって霜が観測できなかった期間があり、欠測(×)となりました。

初冠雪									
山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年	山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年
ハッコウダサン 八甲田山	1584	11. 2	10. 16	10. 12	リュウガン 瀧山	1362	11. 2	10. 30	10. 30
イワキサン 岩木山	1625	11. 4	10. 15	10. 29	イズミガダケ 泉ヶ岳	1175	11. 3	11. 6	11. 19
タイヘイサン 太平山	1170	11. 2	10. 31	11. 9	サオウサン 蔵王山	1841	11. 3	10. 23	10. 30
イワテサン 岩手山	2038	10. 10	10. 13	9. 27	アヅマヤマ 吾妻山	1949	11. 3	10. 21	10. 27
ガッサン 月山	1984	11. 4	10. 15	9. 27	イイデサン 飯豊山	2105	11. 4	10. 17	9. 28
アサヒダケ 朝日岳	1870	11. 4	10. 19	10. 30	バンダイサン 磐梯山	1819	11. 3	10. 24	10. 30
ガンドサン 雁戸山	1485	11. 2	10. 28	10. 30					

注:蔵王山は熊野岳、吾妻山は一切経山の標高を示す。